

## 第51回広畑臨床漢方研究会

記念すべき第50回はこの会を支えてこられた三木先生の特別講演でした。三木先生もこの病院を離れることになり、今回の第51回広畑臨床漢方研修会はこのからの新しい形をめざして、もっと若い先生に参加してもらえる様に、臨床に則した講義、処方解説を行くようにしていきたいと思います。竹田先生と私を中心にこれからも発展させて行きたいと思います。



今回は合田先生に症例提示をして頂きました。

80代男性の胃がん患者です。

4ヶ月前からの全身倦怠、1ヶ月前からの両下肢の浮腫、2週間前から摂食不良  
胸水を認めたので精査のため近位より紹介

検査上

貧血 (Hb4.3)、低栄養 (Alb 2.3)、CRP0.67 とわずかに上昇

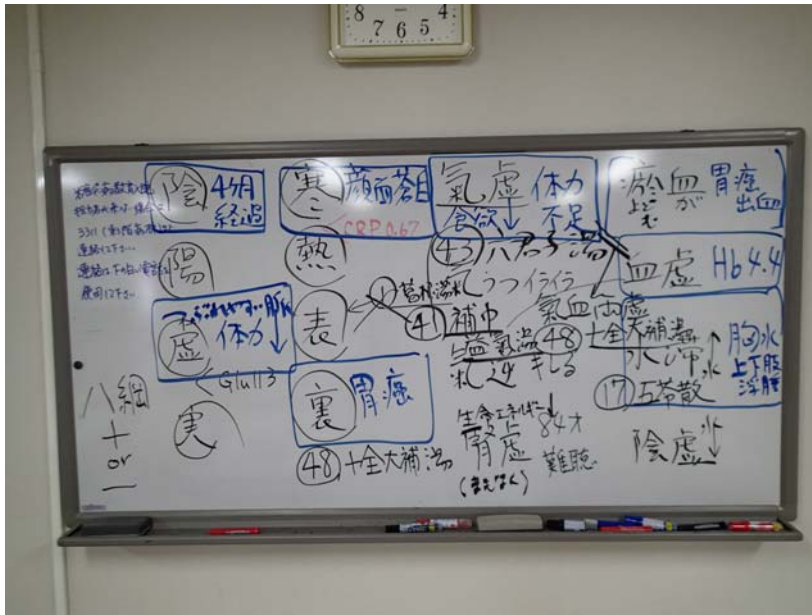
CT 上胸水を認める。

上部消化管内視鏡検査では胃噴門部進行性胃癌

胸水細胞診では悪性 (—)

心原性肺水腫と考えラシックス→アルダクトン

さてここで漢方薬は何を使うべきか？



虚実は→脈の低下、倦怠感→虚

寒熱は →顔面蒼白 平熱 などからどちらかといえば寒

でも CRP わずかに高値は熱と取るか？

表裏は 胃がん、腹部の症状 から 裏と取るべきか。

気→ 食欲低下 イライラする 脾虚 気逆

血→ 貧血 血虚 胃からの出血 於血

水→ 水滞 痰飲

よって選択する方剤は

利水、補気、理気、補血、

候補に挙がったのは

六君子湯、十全大補湯、人参養榮湯、五苓散、補中益氣湯など

結局五苓散に補中益氣湯で浮腫は改善して手術も無事に済みました。

そこで五苓散の処方解説

茯苓、沢瀉、猪苓、朮に桂枝を加えたもの。

利水の4生薬に理気を加えると水が回るといもの

今回理気剤として補中益氣湯を加えたのでより効果的ではなかったか？

そこでさらに補中益気湯の処方解説

人参、黄耆、朮 の補脾

陳皮の 理気

当帰の 補血

大棗、生姜の 補気

甘草 の調和

特に

「柴胡」

「升麻」

が入っているので、十全大補湯よりも周術期に使いやすい。

周術期は熱証になることが多く、清熱作用のある柴胡が入っているのは有利ではないかとの考察です。

#### Take home message

「利尿剤」の五苓散と「理気剤」の補中益気湯で痰陰を改善